

リサイクル事業進出

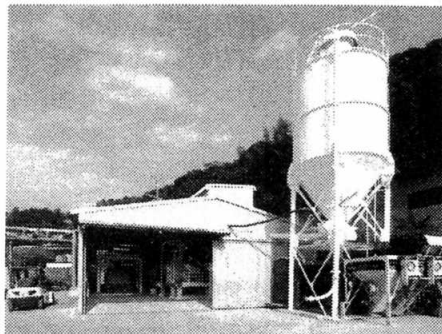
真人建設
真建

使用済み石こうボード活用

地盤固化剤・固液分離剤に

【長崎】真人建設（長崎県諫早市、山本芳弘社長、0957・48・1022）は、使用済み石こうボードをリサイクルする事業に乗り出す。建設現場や建築物の解体現場などから廃石こうを調達。粉砕や焼成などを行い、環境負荷の小さい軟弱地盤向けの固化剤や排液処理用の固液分離剤などに再利用する。初年度は6000万円の売り上げを目指す。

真人建設の廃石こう（市）に約1億2000万円の工程を経て、石こう粉末に再生する。粉末価格は1ト当たり約1万5000円。



真人建設の廃石こう（市）に約1億2000万円の工程を経て、石こう粉末に再生する。粉末価格は1ト当たり約1万5000円。この粉末を泥や汚泥などの軟弱地盤に添加すると、土を脱水・凝固して約1時間で固化する。そこで粉末を地盤固化剤として、地盤の改良などを行う土木業者らに販売する。石こうを使った固化剤は六価クロムなどの有害物質を含まず水素イオン

濃度（pH）はほぼ中性であるため、環境への影響が小さいという。

通常、固化剤として使われているセメントや石灰は固化するのに2〜3日がかかるほか、pH値が高く環境への負荷が大きいという。また、石こうの粉末は凝集効果があるため、土

短期間測定法を開発

住化分析センターは受託測定を行い、価格は3万〜5万円程度。年間2000件の受託を目指す。

4〜9 装置受
日本産業
まとめた5
（9月）の
注高は前年
%減の31
た。9月の
1億円で前
3%減と左
続の落ち込
上期は宣
とんどの基

住化分析センターは受託測定を行い、価格は3万〜5万円程度。年間2000件の受託を目指す。マウスの肝細胞とホタルの発光を触媒とする酵素「ルシフェラーゼ」を利用して測定する。まずマウスの肝細胞の核内にルシフェラーゼを遺伝子操作で接合。測定対象にダイオキシン類があれば、細胞内でたんぱく質と複合体を形成後、ルシフェラーゼと結合する。結合したルシフェラーゼを細胞から取り出し、化学物質試薬のルシフェリンと組み合わせる。その後酸化を行い、発光機能を持つオキシルシフェリンとする。ダイオキシン類の量はオキシルシフェリンの発光量で測定して、半面、割高のため、熱交換器の価格は標準型ステンレス製の3倍程度になる見通し。表面積を広げる特殊形状を実現、溝のないステンレス製熱交換器に比べ生産効率を3倍に向上した。

味の素 全拠点で水資源削減

アミノ酸発酵過程冷却水循環型システム導入

味の素はアミノ酸の発酵過程で使用する冷却水の削減を内外すべての生産事業所で推進する。

の削減を見込む。対象となる生産事業所は内外合計約80カ所。同社が年間使用する水の削減を加速する。今回の活動は、2010年度を最終年度とする。0年度を最終年度とする。グループ共通の中期環境

行動計画「味の素グループ・ゼロエミッション5/10計画」の一環。同計画の中では水資源保全のための「排水ゼロエミッション」も打ち出しており、浄化処理後のBODを10ppm以下、全窒素5ppm以下に抑える目標値を設定している。

排出のボイラなど産業用途での製品化を目指す。これまでボイラなどから出る排ガスのうち、140度C以下の排熱は回収時の危険性から排煙として廃棄していた。だが排ガス中に含まれる水蒸気の潜熱を処理することで、従来の排熱エネルギーの約66%を回収。排気

に優れる。半面、割高のため、熱交換器の価格は標準型ステンレス製の3倍程度になる見通し。表面積を広げる特殊形状を実現、溝のないステンレス製熱交換器に比べ生産効率を3倍に向上した。

トーセツ（東京都港区）がコンサルティングを担当。ダイキンアラ

え般などに
オキシネ
簡易測定を
グルー
100億
AOCキ
スは石油
に08年度